

卷頭言



ICT は人間性を育てているか？

東北大学高度教養教育・学生支援機構・教授、副機構長、
総長特別補佐（研究倫理）、広島大学名誉教授

羽田 貴史

Takashi HATA

満員バスで通勤する私は、スマホで熱心にメールしながら、無言のまま周りの乗客を押しのけて下車する人々が気になります。遠くの誰かと親しげに対話するのに、なぜ隣人に「すみません」の一言が出ないのでしょうか。ICT の発達は、世界を一変させました。メールやネットの効用は、世界の垣根を取り払い、その恩恵はいくら称賛しても足りません。昨年、私も企画運営に参加した東北地区 IDE セミナーは、「大学教育における ICT 活用の光と影」をテーマに取り上げました。議論は、活字発明以来のメディア革命の時期に我々は逢着しているということになり、光の部分に焦点が当てられました。

しかし、私は影の部分が気になり続けています。「ケータイ依存症候群」の学生の話は 15 年ほど前のことです。正高信男『ケータイを持ったサル—「人間らしさ」の崩壊』（2003 年）は、他者との関係を作れない若者の増大と、その原因としての IT 化を指摘しました。コミュニケーションは、空間と時間が近接した人間関係の中で成立するのですが、IT がその制約を飛び越し、今そこにいない人々と結びつくことを対話と錯覚させるようになってしましました。その結果、今そこにいる人々—公共空間であるはずのバスや路上の隣人—が、配慮も関係も必要ない他者になってしまい、人々は饒舌に対話しながら、信頼する関係を構築する能力を失っていく、というのがその趣旨でした。

時代はさらに進み、フェイスブックやツイッターなどのコミュニケーション・ツールは、ヘイト・スピーチの温床となっています。かつて個人の意見は、新聞・雑誌など公共空間で顕名を伴い、自己責任を伴って語られ、それへの賛否が示されることで、思想の自由市場を経た社会的常識と公共心が作られました。公共心とは内面化された他者の目に外なりません。匿名のもとでネットに表出される意見は、ひたすら自己を正当化し、敵視する人々への憎悪を募らせています。ゲームのやり過ぎが前頭葉を不活発にし、「ゲーム脳」になるという説は、非科学的として一蹴されているようです。しかし、人々が暇つぶしに読書したり物思いにふけったり、自己の内面を肥え・太らせる栄養と時間を引き換えにしていることは間違いないでしょう。何よりも、この 20 年間 ICT がこれほど発達しながら、人間が賢くなったとか、幸せになったとかいう証拠が見つかりません。今一度、立ち止まって ICT との付き合い方を考える時期ではないでしょうか。

略歴

羽田 貴史（はた たかし） HATA, Takashi

生年月日 1952年6月16日

1979年9月 北海道大学大学院教育学研究科博士課程中退

1979年10月 福島大学教育学部助手

1983年10月 福島大学教育学部助教授

1994年4月 広島大学大学教育研究センター助教授

1999年4月 広島大学大学教育研究センター教授

2007年4月 東北大学高等教育開発推進センター教授

2014年4月 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授（組織改組により）、同副機構長（現在に至る）

この間、文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員、厚生労働省保健師教育ワーキンググループ専門委員、国立大学協会調査企画会議委員、放送大学客員教授、名古屋大学高等教育研究センター客員教授など。

専門分野：高等教育論、大学史・大学教育論

研究テーマ：近代日本大学史、大学教員の能力形成、学問的誠実性の国際比較、教養教育論、大学のガバナンスとマネジメント

学会活動等：日本教育学会会員、教育史学会会員、日本教育社会学会会員、日本教育行政学会会員、大学史研究会会員、日本高等教育学会理事（現在）、大学教育学会常任理事（現在）、日本教育社会学会理事（現在）